

Dual-axis rotational coronary angiography を CAG/PCI 時に頻用するための効率的な方法

¹国立病院機構 浜田医療センター、²国立病院機構 浜田医療センター、³国立病院機構 浜田医療センター

加戸 渉¹、中山 睦夫²、小倉 裕樹³、大宮 俊秀²、日野 昭宏²

【目的】 Dual-axis rotational angiography (DARCA/XperSwing) は、PHILIPS 社の連続血管造影装置 (Allura Xper FD-10/FD-20) に付属する『3次元冠動脈造影』のためのアプリケーションである。同法を用いることで使用造影剤量削減ならびに被ばく線量低減に機与することは既に判明しており当院でも DARCA を積極的に活用している。しかし、同撮影のためには2軸のアイソ・センターの模索と設定に時間を要するため広くは普及していないのが現状である。そこで DARCA 実施の障害となっている設定に関して独自の効率的な手法を提案しその効果を検証する。【方法】 1, RL(right-left)アイソ・センターを AP で合わせた(table 前後左右)後、2, CC(cranio-caudal)アイソ・センターを Swing 軌道内の LAO または RAO で合わせる(table 高)。その後、3, 複数の撮影方向で心陰影がフレーム・アウトしないように微調整を行う。続いて DARCA を実施し良好に撮影された画像に関して、table 高、カテーテル先端の位置、心陰影の境界を記録する。この結果を3に還元し位置決定の指標にし、同手法と従来の手法との「撮影準備所要時間」を測定する。【結果】 DARCA 撮影に関して我々の提唱する簡易的な方法でフレーム・アウトすることなく良好な撮影画像が得られた。また、無作為に割り当てた「撮影準備所要時間」は従来の DARCA 撮影準備と比較して有意に短縮された。【結語・考察】 今回、提示した DARCA (XperSwing) の新規かつ簡易な撮影準備法を用いることで日常冠動脈診療における DARCA のさらなる普及に寄与するものと期待される。